

寒冷地での取り扱い

この項目での寒冷地とは、北海道全域および東北、北陸の積雪地帯および、その他の地域を含めた山岳地、スキー場などの局地的な厳寒地区、多雪地区を対象としておりますが、その他の地域においても、冬期の取扱いの参考としてください。

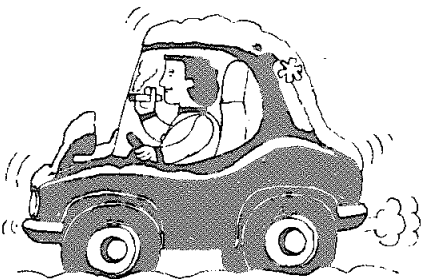
寒冷地の運転について

〈厳寒時のエンジン始動要領〉

- ★始動時のアクセル・ペダルとチョークの操作はチョークの項を参照ください。
- ★エンジンの回転が完全に持続するまで、スターターを回してください。
- ★スターターを回し続けて約15秒経過しても始動できない場合は、いったんエンジン・スイッチをOFFにし、しばらく時間をおいてバッテリーの能力の回復をまって、再始動してください。
- ★始動しない場合にはガソリンの吸い込みすぎのことがあります。アクセル・ペダルをいっぱい踏んだままスターターを回してください。
- ★エンジン始動を容易にするためクラッチ・ペダルを踏んでエンジンの負荷を減らしてください。

〈エンジン・ウォーム・アップを行ないましょう。〉

★厳寒時、エンジンが冷えきった状態で車を走行させることは、エンジン各部に大きな負担をかけることになります。エンジンのウォーム・アップは燃費の節約のみでなく、エンジンを長持ちさせるのに効果的です。



〈エンジンの冷えすぎを防ぐには〉

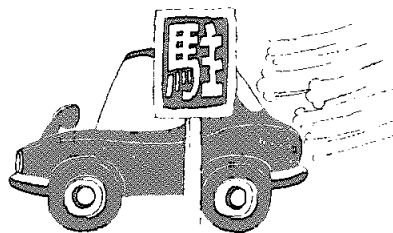
★気温に応じてラジエーター前面にカバーをつけるとエンジンを適温に保つのに効果があります。

〈ドア、ドア・キーの凍結時の処置〉

★ドアが凍結した場合は無理に開けようとするとドアまわりのゴムがはがれたり、亀裂する恐れがありますので、湯をかけて氷を溶かしてください。なお、後で水分を十分ふきとっておきましょう。

〈走行時の注意〉

- ★乗車時、靴に付着した雪をよく落とし、アクセル・ペダル凍結防止に必要です。
 - ★雪道走行時、フェンダー裏側に付着した雪が氷結し次にたい積して、ハンドルのきれが悪くなるこそがあります。時々異常のないことを確認してください。
 - ★ドライブ・テクニックについては、“上手な運転のしかた”を参考に、無理をしない運転を心がけてください。
- ### 〈駐車時の注意〉
- ★屋外に長時間駐車する場合はできるだけ車を風下に向けて置きましょう。

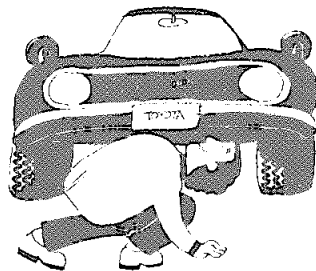


寒冷時の車の保守

〈走行前の点検〉

寒冷時には、次の項目を仕業点検の時に実施してください。

- ★車の下をのぞいて、ステアリングのリンクやブレーキ・ホースに付着した氷塊をとり除いてください。
- ★エンジン始動時にアクセル・ペダルの作動が円滑かどうか確認してください。
- ★フロント・ウィンドウの冰雪を除去する際にはワイパー・ブレードがガラスに凍結していないか確認してください。



〈洗車についての注意〉

- ★凍結防止剤をまいた道路を走行した場合は、早めに下まわりを洗ってください。放置すると付着した塩分のため下まわりが腐蝕しやすくなります。
- ★洗車後の水切は十分に行なってください。特にドアおよびラックージ・ドアまわりに注意して凍結を防止してください。



〈冬期の前後の点検、整備〉

★厳しい寒さと氷雪に備えて車も冬仕度が欠かせません。冬を迎える前にトヨタのサービス工場では冬期シーズン・イン点検を実施ください。

★冬期を迎えて必要な点検整備の主要項目

- バッテリー充電系統の点検、ターミナル付近の清掃
- 始動系統、点火系統の点検
- 冷却系統の点検（不凍液、ロング・ライフ・クーラントの濃度等）
- エア・クリーナ吸気コントロール・レバーの切替
- 冬期用エンジン・オイルの切替
冬期にはエンジン・オイルを低粘度のものに切り替えてください。
- キャブレタ・チョークの作動点検、調整
- タイヤ・チェーンの準備
- 冬期用タイヤ、スノー・タイヤに取り替えるときは、4輪ともスノー・タイヤに替えてください。

- 冬期用ワイパー・ブレードの装着
冬期用ワイパー・ブレードは必ず、トヨタ純正品を使用してください。
- ウィンドウ・ウォッシャー液を濃度50%のものと交換
- 下まわりの点検など

★冬が終わったら、冬のために装備した部品を元に戻しましょう。

特に冬期用ワイパー・ブレードは夏期に使用しないでください。

なお、冬期の荒れた路面を走行した下まわりも点検しましょう。